

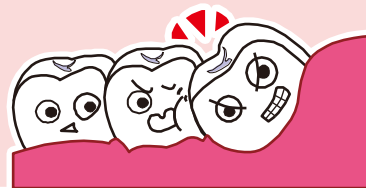


歯の「はなし」

「抜く?」「抜かない?」

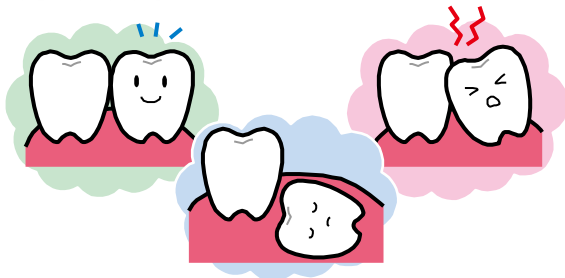
「親知らず」問題

親知らずは前歯から数えて8番目、一番奥にある歯のことです。親知らずといえば「痛む」「腫れる」など、厄介者のイメージを持たれるかもしれませんが、そのため、抜歯すべきか残すべきか悩む人も多いのではないのでしょうか? そこで今回は、さまざまな“親知らず”の問題についてお話しさせていただきます。



人によって様々な生え方がある!

親知らずは一般的に上下あわせて4本生えてきますが、もともと親知らずがない人や4本すべて揃わない人も少なくありません。生える場所に十分なスペースがないなどの理由で、歯ぐきに埋まったり横向きに生えてくることもよく見られます。



むし歯や歯周病になりやすい



親知らずはみがきにくいいため、むし歯や歯周病といったトラブルを抱えがちです。そこで、みがく時は先端の毛が特殊な「ワンタフトブラシ」をおすすめします。

普通の歯ブラシで全体をみがいた後、噛み合わせの溝や歯と歯の間など歯垢の溜まりやすいところをワンタフトブラシで細かくみがきましょう。

抜歯すべき? 残すべき?

親知らずを抜歯すべきか残すべきかはお口の状態によりますが、主に次のような状態が判断の目安になります。

抜歯しなくても良い状態

- 親知らずが真っ直ぐ生えている。
- 親知らずに歯ぐきががびっていない。
- 上下の親知らずが揃っていて、噛む機能がある。



抜歯した方が良い状態

- 親知らずの周囲が腫れて痛む。
- 親知らずが原因で周囲の歯がむし歯や歯周病になっている。
- 親知らずが斜めや横に生えている。



～お口の中の状態は個人差がありますので、実際に抜歯するかどうかは歯科医師とよく相談して決めましょう～

抜歯後に注意したい「ドライソケット」

親知らずの抜歯をした後、もし痛みが続いたら「ドライソケット」を疑いましょう。通常、抜歯後の穴は血が固まって塞がり、徐々に歯ぐきが作られていきます。しかし、時に穴が塞がらず骨が露出し、炎症を起こすことがあります。これがドライソケットです。抜歯後は痛みも少しずつ和らいでいきますが、2～3日経過しても痛みが増すような時は注意が必要です。ドライソケットを防ぐには、抜歯後は必要以上にうがいをせず、激しい運動・飲酒・長時間の入浴は避けるようにしましょう。



抜く必要がある親知らずは、早めの処置が大切です。親知らずに関して気になることがある場合はお気軽にご相談ください。